

春夏秋冬「春」(矢田部良吉)

春は 物事 よろこばし

吹く 風とても 暖かし

夜の 桜や 桃の花

よに 美しく 見ゆる かな

野辺の 雲雀は いと 高く

雲井 遙かに 舞いて 鳴く

作者 明治時代の日本の植物学者、詩人。理学博士。東京大学初代植物学教授となる。東京博物館長、東京盲啞学校長等を歴任。「新体詩抄」を著わし、新体詩を提唱した。

解説 春を詠じた詩。

語釈 ※物事Ⅱいろいろな物や事柄。※よろこばしⅡ快く満足な気分である。うれしい。※野辺Ⅱ野のほとり。野原。

※雲井Ⅱ雲のある所。空の高い所。大空。

通釈 春の物事は快く満足な気分になる。吹く風も暖かく、開花した夜の桜や桃の花はとても美しい。そして、野のほとりに居た雀は飛び上がり、遙か大空に鳴きながら舞き上がって行く。